

### 2019年株式市場の投資戦略 2月編

#### 【要旨】

2月日経平均は20000円～21000円のゾーンを中心に推移  
3月以降の上昇に備え、有望銘柄の仕入れ時と見る。  
中国景気減速などを考慮し、「サチとれ銘柄」入替

#### 1. 「サチとれ」銘柄パフォーマンス

1月11日～2月8日

【高値ベース 18.8% 終値株価ベース 10.2%】

(日経平均 3.4% 0.2%)

#### 2. 銘柄入替

中国関連、半導体関連、高PER銘柄等を外し、バリュー銘柄、国内需要関連を入れる。

6銘柄アウト 5銘柄イン

#### 3. 日経平均の動き

1月～2月 20,000円～21,000円

3月～5月 21,000円～24,000円 (メインシナリオ)

18,000円～21,000円 (悲観シナリオ)

6月～12月 22,000円～24,000円 (メインシナリオ)

20,000円～22,000円 (悲観シナリオ)

本レポートに掲載された情報・見通し・意見などは、株式会社日本マネジコが信頼に足ると判断した資料、情報に基づき作成されていますが、その内容の完全性、正確性を保証するものではありません。本レポートに掲載された内容は、必ずしも適切且つ妥当なものとは限りません。投資に係る最終決定は、投資者ご自身の判断と責任で行なって下さい。また、注意事項の詳細につきましては最終ページをご参照ください。

## 1. サチとれ銘柄パフォーマンス

1月11日～2月8日までのサチとれ銘柄のパフォーマンスは下記の通り

	市場	コード	決算	銘柄	1月11日	その後高値	2月8日	高値上昇率	上昇率
1	東証1部	9006	3	京浜急行電鉄	1823	1870	1780	2.6%	-2.4%
2	東証1部	4816	3	東映アニメーション	4240	4990	4705	17.7%	11.0%
3	東証1部	4922	3	コーセー	15110	17690	16540	17.1%	9.5%
4	東証1部	3139	11	ラクトジャパン	6550	8560	8330	30.7%	27.2%
5	東証1部	8473	3	SBI証券	2222	2394	2128	7.7%	-4.2%
6	東証1部	9041	3	近鉄グループHD	4905	4950	4760	0.9%	-3.0%
7	東証1部	3926	3	オープンドア	2753	3170	2920	15.1%	6.1%
8	東証1部	2326	3	デジタルアーツ	5940	8250	8030	38.9%	35.2%
9	東証1部	6758	3	ソニー	5320	5522	4906	3.8%	-7.8%
10	東証1部	6316	9	丸山製作所	1317	1393	1328	5.8%	0.8%
11	東証1部	7532	6	ドンキホーテホールディングス	6240	6870	6500	10.1%	4.2%
12	東証M	2150	12	ケアネット	879	1066	757	21.3%	-13.9%
13	東証1部	3724	3	ベリサーブ	4335	6700	6680	54.6%	54.1%
14	東証1部	3048	8	ビックカメラ	1434	1477	1212	3.0%	-15.5%
15	東証1部	2163	1	アルトナー	661	933	886	41.1%	34.0%
16	東証1部	4324	12	電通	4895	5350	4920	9.3%	0.5%
17	東証1部	6754	3	アンリツ	1570	2210	2160	40.8%	37.6%
		平均						18.8%	10.2%
		日経平均			20294.74	20981.23	20333.17	3.4%	0.2%

2月8日終値での勝率は11勝6敗

高値までの平均パフォーマンスは18.8%

2月8日終値でのパフォーマンスは10.2%

日経平均パフォーマンスは、高値3.4%、2月8日0.2%

サチとれ銘柄パフォーマンスは、日経平均に対し、10%のアウトパフォーマンスとなった。

最高パフォーマンスは高値ベース8日ベース共にベリサーブ(3724)54.6%、54.1%

最低パフォーマンスは高値ベース近鉄グループHD0.9%、8日ベースビックカメラ△15.5%

本レポートに掲載された情報・見通し・意見などは、株式会社日本マネジコが信頼に足ると判断した資料、情報に基づき作成されていますが、その内容の完全性、正確性を保証するものではありません。本レポートに掲載された内容は、必ずしも適切且つ妥当なものとは限りません。投資に係る最終決定は、投資者ご自身の判断と責任で行なって下さい。また、注意事項の詳細につきましては最終ページをご参照ください。

## 2. 銘柄入替

注目銘柄の入替を行い、2月以降のサチとれ銘柄は、以下の16銘柄とする。

	市場		コード	決算	銘柄	業種	2月8日
1	東証1部	インバウンド	9006	3	京浜急行電鉄	陸運	1780
2	東証1部	クールジャパン	4816	3	東映アニメーション	情報通信	4705
3	東証1部	浅漬け・健康食品	2925	2	ビックルス	食品	2020
4	東証1部	TPP	3139	11	ラクトジャパン	食品	8330
5	東証1部	TPP	8473	3	SBI証券	金融証券	2128
6	東証1部	万博	9041	3	近鉄グループHD	陸運	4760
7	東証1部	リチウムイオン電池	6674	3	ジーエス・ユアサ	電気機器	2181
8	東証1部	医療電子機器	6849	3	日本光電	機械	3265
9	東証1部	TPP	6316	9	丸山製作所	機械	1328
10	東証1部	インバウンド	7532	6	ドンキホーテホールディングス	小売り	6500
11	東証M	薬品	2150	12	ケアネット	医療情報	757
12	東証1部	自動運転	3724	3	ベリサーブ	システム・ソフトウェア	6680
13	東証1部	キャッシュレス	3048	8	ビックカメラ	家電小売り	1212
14	東証1部	医療改革	6823	3	リオン	医療用機器	1768
15	東証1部		4324	12	電通	広告	4920
16	東証1部	国土強靱化	9755	12	応用地質	建設土木	1172
		平均上昇率					
		日経平均					20333.17

### ★アウト

コーセー（中国消費の落ち込み懸念）  
 オープンドア（高PER銘柄回避の為）  
 デジタルアーツ（短期間で上昇率過大）  
 ソニー（為替リスク回避の為）  
 アルトナー（短期間で上昇率過大）  
 アンリツ（半導体関連回避の為）

### ★イン

ビックルス（低バリュエーション）  
 ジーエス・ユアサ（低バリュエーション）  
 日本光電（好業績 株価位置）  
 リオン（低バリュエーション）  
 応用地質（補正予算、災害関連）

本レポートに掲載された情報・見通し・意見などは、株式会社日本マネジコが信頼に足ると判断した資料、情報に基づき作成されていますが、その内容の完全性、正確性を保証するものではありません。本レポートに掲載された内容は、必ずしも適切且つ妥当なものとは限りません。投資に係る最終決定は、投資者ご自身の判断と責任で行なって下さい。また、注意事項の詳細につきましては最終ページをご参照ください。

### 3. 相場概況と見通し

ここ1か月の日経平均株価は、需給関係などから21000円を抜けず。結局2月8日に急落を招き、20300円近辺に下落した。

21000円を抜けないことは想定通りだったが、想定外だったのは、予想以上に、21000円近辺に長期間滞留したことだ。

1月半ば以降1か月間は、日経平均は20400円から20900円という、500円程度の狭いレンジでの動きに終始した。想定では、20000円～21000円という1000円程度のレンジで動くことが考えられたが、米中通商摩擦問題の進展が良くも悪くも「なかった」ことから、かえって株価は高値水準に留まった。

米中問題の進展が止まっている間、FRBによるハト派的発言が生じたこと、トランプ大統領が議会に対し、融和的な動きをする「素振り」を見せたことなどから、市場は全体的に好材料に恵まれたと言えるだろう。

一方、中国経済の成長鈍化はより明確なものとなり、GDP四半期成長率6.4%という数値は、一定のエコノミストにはサプライズとなった。

日経平均が1か月近く20000円台後半に留まっていたことは、決してプラスの材料ではない。おそらく、次に反発に転じた時に、21000円を抜くのに、より大きなエネルギーを必要とする要因を作ってしまったからだ。



## 4. 銘柄選別の留意点

こういった状況から、日経平均株価は、2月中、引き続き 20000 円～21000 円のゾーンで推移すると見るが、若干、上値が重くなるのは避けられないだろう。場合によっては、小型株の方にチャンスがあるかもしれない。

米中通商摩擦はこれからが本番だ。為替が上下に大きく動く可能性もあり、短期的にはともかく、中期的には、円高に耐性がある銘柄にシフトしておく必要がある。

また、中国の景気減速は鮮明となっている。これがどのような着地を見せるかはまだわからないが、「爆買い」期待の小売関連は、避けるべきだろう。前年の反動で業績悪化の可能性はある。

高 PER 銘柄、半導体関連銘柄にも注意が必要だ。すべてを回避すべきというのは極端だが、投資判断する際に、高 PER の根拠をとらえておくべきだろう。

このような中で、割安（低 PBR）銘柄で業績が過去に十分な実績があるが、一時減益に甘んじていた銘柄の復活や、TPP、万博といった、それほど注目されていない材料を持つ割安銘柄に、仕込むチャンスがあるだろう。

**PBR=0.9～1.1 倍（PBR は低すぎても良くない）の銘柄から、テクニカル、信**

本レポートに掲載された情報・見通し・意見などは、株式会社日本マネジコが信頼に足ると判断した資料、情報に基づき作成されていますが、その内容の完全性、正確性を保証するものではありません。本レポートに掲載された内容は、必ずしも適切且つ妥当なものとは限りません。投資に係る最終決定は、投資者ご自身の判断と責任で行なって下さい。また、注意事項の詳細につきましては最終ページをご参照ください。

用残などを地道に分析して選別すべきと考える。

.....  
2019年2月12日 (株)日本マネジコ  
担当アナリスト 堀 篤  
.....

---

本レポートに掲載された情報・見通し・意見などは、株式会社日本マネジコが信頼に足ると判断した資料、情報に基づき作成されていますが、その内容の完全性、正確性を保証するものではありません。本レポートに掲載された内容は、必ずしも適切且つ妥当なものとは限りません。投資に係る最終決定は、投資者ご自身の判断と責任で行なって下さい。また、注意事項の詳細につきましては最終ページをご参照ください。